

TOEIC Bridge との関連から見た英語 e-learning 学習の活用について

Efficient Software for Teaching the Fundamentals of English

谷岡朗¹ 中川浩¹ 周一川¹ 郭海燕¹ ○鈴木孝¹ 多恵基継¹ ジョセフ・ファラウト¹ 中村文紀¹
 ルート・ヴァンバーレン¹ ジョナサン・ハリソン¹ 福田敦² 石坂哲宏²

Akira Tanioka, Hiroshi Nakagawa, Zhou Yichuan, Guo Haiyan, Takashi Suzuki, Mototsugu Tae, Joseph Falout,
 Fuminori Nakamura, Ruth Vanbaelen, Jonathan Harrison, Atsushi Fukuda, Tetsuhiro Ishizaka

Freshmen take the TOEIC bridge examination biannually at the end of each semester. Students in certain classes regularly use ALC NetAcademy software in their classes. The scores from the two most recent TOEIC Bridge examinations were analyzed. Of the students who performed better on the TOEIC Bridge examination, on average at the lower levels the group of students who used ALC NetAcademy software had noticeably higher gains than the group that did not. The results prove the efficiency of using software for improving students' fundamental English. One of the next challenges for us, the e-learning research group, is how to encourage the students to use e-learning software regularly.

平成20年度より実施されている英語科目の新カリキュラムでは、学部一年生対象の英語IA・IB、英語IIA・IIBにおいて習熟度別クラス編成を導入し、前期のクラス分けには従来から実施されている学力調査の結果を、また後期のクラス分けにはTOEIC Bridgeのスコアを利用していることが大きな特徴として挙げられる。TOEIC Bridgeは、英語能力の客観的な基準として多くの企業等で活用されているTOEICの難易度を落としたものであり、また文字通りTOEICへの橋渡しをなすものである。したがって、TOEIC Bridgeのスコアは基礎学力の客観的な基準ともなり得ると言え、学生は学力の社会的関係を知ることができるばかりか、授業内外での学習の達成度を把握することができるのである。習熟度別クラス編成を導入した最大の目的は、大学入学直後の英語学習において基礎的な学力をしっかりと身に付けさせること、学力の定着を学生自らが明確に認識し不足部分を補えるような意識を高めることにあるが、この点においてTOEIC Bridgeは適切に機能すると考えられる。

本発表者をはじめとする一般教育e-learning研究グループでは、新カリキュラムの導入前から、ALC NetAcademyなどの英語e-learning学習ソフトの導入および活用法の研究をしており、その成果については本講演会でも複数の発表を行ってきた。本発表では、新カリキュラムの習熟度別クラス編成、及びその客観基準としてのTOEIC Bridgeスコアに対して、英語e-learning学習ソフトの活用によどのような効果が期待できるかを検討してみたい。

2. データの検証

昨年度の前期末、後期末、及び今年度の前期末に計三回実施されたTOEIC Bridgeスコアの平均点をTOEICスコアに換算すると330点程度となるが、企業が新入社員に期待するスコアの平均点が546.7点であることを考えると（国際ビジネスコミュニケーション協会『TOEIC Newsletter 2009年度新入社員スコア特集』による）、残念ながら本学部学生の基礎的な英語力は社会のニーズと開きがある。ある程度までの基礎学力養成には、知識の習得と同時に反復的な演習が必要なことは言うまでもないことだが、その一方で一コマ九十分という授業内だけの活動では十分な反復演習が行えないのが現状である。その不足を補うものとしての活用が期待できるものが、「いつでも、どこでも、自分のペースで」学習が進められるe-learning学習ソフトである。現在、非常勤講師を含む数人の英語教員が、授業内、課外、または講習会の開催などを通じて、英語学習の定着を図るべくALC社のNetAcademyをそれぞれの方法で活用しているが、利用経験のある学生の評判はおおむね良好である一方、そのソフトが今後も十分に活用され、その機能を十分に果たすためには様々な観点からの検証が必要と思われる。そこで本研究では、昨年度e-learning学習ソフトを授業内で定期的に活用したクラスとそうでないクラスとで、前期と後期のTOEIC Bridgeスコアの結果によどのような差異が見られるかを検証することにした。

前述のように、使用方法が教員によって異なるため、ここでは、ALC NetAcademyの「英文法コース」を授業内で利用し、学習事項の定着を図るよう学習後に毎回小テストを実施した教員（1名）の英語I及び英語IIの初級クラス（以下「e-learningクラス」とする）と、それ以外の英語I及び英語IIクラス（以下「非e-learningクラス」とする）との比較を行った。対象は、e-learningクラスのTOEIC Bridge 最高点である118点以下に絞り（e-learningクラスが89名、非e-learningクラスが518名）、前期終了時で同スコアであった学生が、e-learningクラス／非e-learningクラスの授業を受けた結果、後期TOEIC Bridgeのスコアでどの程度上昇または下降しているかを分析した。この結果、スコアをアップさせた学生の割合は、TOTALスコア、Listening スコア、Reading スコアすべてにおいて、e-learningクラスのほうが非e-learningクラスよりも上回ったことが分かる（Figure 1）。また、e-learningクラスのサンプル数の最も多い、前期TOEIC Bridge 98点、104点、106点、112点、116点の五つのスコア帯に絞り、その対象者が後期TOEIC BridgeでTOTALスコアをアップさせた割合を比較したところ、いずれにおいても、やはりe-learningクラスのほうが、スコアをダウンさせた受講生よりもアップさせた受講生の割合が多いという結果が出た（Figure 2／対象：e-learningクラス46名、非e-learningクラス185名）。

これらの結果から、継続的なe-learning学習ソフトの活用は、学生の基礎学力養成に一定の貢献をし得るといえる。

3. 今後の課題

本グループは、昨年の夏、及び今年の春と夏に、学生の学力向上とe-learningの効果的な利用方法の検証を兼ね、e-learning学習と対面授業とを組み合わせTOEIC 講習会を行った。受講者によるアンケート結果からも、学習者の多くがe-learningによる補完的な学習の効果を実感している。e-learning学習ソフトは学習者のレベルに合わせた学習が可能であり、新カリキュラムで導入された習熟度別クラスのレベルに合わせた授業内外での活用が定期的に行われるようになれば、基礎的な学力の定着に大きな効果を発揮できると推察される。そのためには、学習者の利用の習慣化をいかにはかるかといった問題、PC演習室の確保、教員への協力依頼といったことが今後解決すべき課題となるだろう。

最後に、本研究は、平成20年度の「情報教育研究センター公募制研究費」による研究の一端であり、ここに記して感謝の意を表したい。

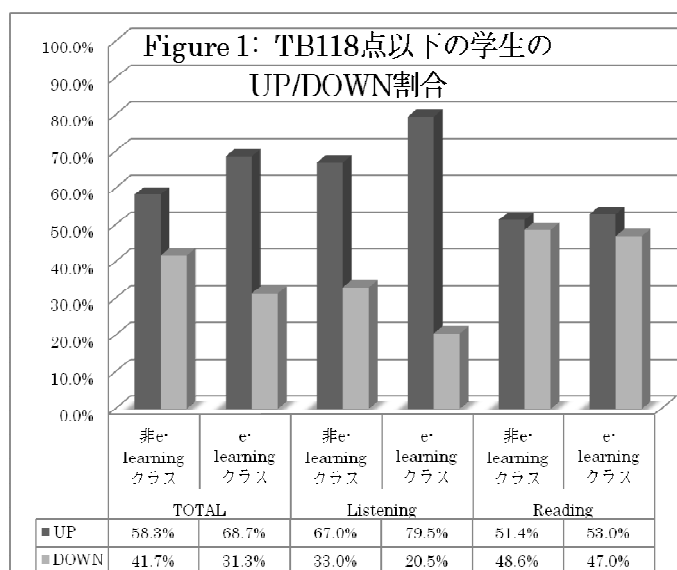


Figure 2:

基準点 (前期TBスコア)	クラス	割合		
		UP	DOWN	UP-DOWN
98	非e-learningクラス	87.5%	12.5%	75.0%
	e-learningクラス	88.9%	11.1%	77.8%
104	非e-learningクラス	61.9%	38.1%	23.8%
	e-learningクラス	87.5%	12.5%	75.0%
106	非e-learningクラス	63.6%	36.4%	27.3%
	e-learningクラス	66.7%	33.3%	33.3%
112	非e-learningクラス	40.3%	59.7%	-19.4%
	e-learningクラス	57.1%	42.9%	14.3%
116	非e-learningクラス	57.4%	42.6%	14.8%
	e-learningクラス	76.9%	23.1%	53.8%

1: 日大理工・教員・一般 2: 日大理工・教員・交通